

平成29年度 第4回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成29年11月26日（日）午後2時00分～4時00分
開催場所	東小金井駅開設記念会館・マロンホール
参加者	男性 7名 女性 13名 計 20名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 懇 談 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・ 都市計画道路の説明会のあり方について・ 庁舎及び福祉会館について・ 商業中心とした小金井のまちづくりについて・ 市民農園について・ 道徳教育について・ 街路灯について・ 行政の公正・公平性について・ 市民交流センターのネーミングライツについて・ 市の予算配分について・ 公共施設等の老朽化について・ 官民協働による民間活力の導入について・ 地域活性化について・ 東京都立公園の整備計画について・ 市民交流センターの利用について・ 障がい者との交流やイベントについて・ 集会施設のアクセスについて・ 座談会の運営について・ 議会の動画公開の方法について・ 東京学芸大学との連携協定について・ 職員の円滑な情報共有について・ 市のオリンピックへの取組みについて
懇談内容	別紙のとおり
そ の 他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成29年度 第4回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんにちは。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

はじめに、配布資料の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第でございます。2点目がアンケートになります。3点目「小金井しあわせプラン」の概要版。4点目「平成29年度 施政方針」。予め皆様にご用意したものは以上4点でございますが、この他、受付にいくつか参考資料を置かせていただいておりますので、ご自由にお持ちいただければと思います。

開催にあたりまして、事務局よりご説明申し上げます。この座談会は昨年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2～4回程度、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催をさせていただいております。本日の進め方でございますが、初めに市長の西岡より市政について現状報告をさせていただき、その後、意見交換ということで皆様から自由にご発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただきます。

最後に、事務局より3点ほどご了承いただきたいと存じます。1点目、懇談中は議事録作成のため録音させていただきます。2点目、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。最後に3点目、本日の終了時刻は午後4時となっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。では、次第に従いまして市長の西岡よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○西岡市長

こんにちは。日曜日のとても良いお天気の中、市民と市長の座談会に参加をいただきまして、皆様、誠にありがとうございます。御礼申し上げます。小金井の市長に就任をさせていただいて、来月でちょうど2年を迎えるところでございます。私の任期も、早いもので12月を過ぎますと折り返し地点を経過することとなります。市民の方々にとって、小金井市というまちが誇りを持てる、住み続けたいと願っていただける、そして市民の力や地域の力がもっと活かされるまちをめざしたいということで、この2年間、様々なことに取り組んでまいりました。前回はグランドデザインということで、小金井市の将来像・未来像について語り合わせていただく、そんな座談会をさせていただきましたが、今日は、主に施政方針に基づきまして、今、私が、あるいは小金井市がどのような課題に取り組んでいるのか、そして、これから取り組もうとしているのか、こういったところにつきましてお話をさせていただきます。

どうぞ、皆様方からは市政に関する様々なご意見、ご要望、声を今日お聞かせいただきたいと思います。その声を参考にさせていただいて、今後の市政運営に努力をしてまいりたいと、このように考えておりますのでよろしくお願ひします。

なお、時間配分ですけれども、2時半くらいまでお時間をいただきまして、この2年間の取組や現在取り組んでいることについてお話をさせていただき、残りの1時間半は色々な意見交換の時間とさせていただきたいと思います。午後4時に一応終了する予定となっておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○司会者

それでは、次第に従いまして懇談に入らせていただきます。初めに、市長の方から市政報告をさせていただきます。

3 懇 談

○西岡市長

座ったままで失礼いたします。よろしくお願いいいたします。施政方針に基づいて、現状を少しお話してまいります。少し字が小さいかもしれませんが、どうかお許しいただきたいと思ひます。

この施政方針は、毎年、掲げているものでございまして、平成29年度の市政は基本的には基本計画や基本構想、様々な計画に基づいて市政運営を行っておりますが、この施政方針もとても大切なものでございまして、私も職員も、この施政方針に基づいて予算の執行、様々なことに取り組みさせていただいております。基本的には、この流れの中でお話をさせていただきたいと思ひますのでよろしくお願いいいたします。

まず、小金井市の最重要課題の一つが可燃ごみの処理でございます。平成19年に二枚橋焼却炉の停止をしてから、10年を迎えることとなります。詳細は省きますけれども、この10年の間に様々なことがありましたが、現状は、平成27年に日野市、国分寺市、小金井市の3市で浅川清流環境組合を設立いたしました。これは可燃ごみ3市の市民の方々の可燃ごみを処理する新しい施設を日野市に建設をするということになりました。ここに至るまでには様々なことがありましたが、まだ現在は焼却炉がない状況でありますので、三多摩地域の様々な自治体の方々に小金井の可燃ごみのご支援をいただいております。改めて、日野市、そして小金井の可燃ごみを処理していただいた、あるいは処理していただいている各自自治体の市民の皆様にも、また最終処分場で、私たちが出した可燃ごみの最終灰、エコセメント等に活用されていますが、日の出町の皆様にも大変お世話になっております。心から感謝を申し上げる次第でございます。

可燃ごみは、平成29年度から新しい枠組みでご支援をいただいております。一つはパートナーである国分寺市に継続してご支援いただいております。そして、新たに三鷹市と調布市で構成するふじみ衛生組合にも、可燃ごみの処理を受け入れていただいております。それから稲城市、狛江市、府中市、国立市で構成する多摩川衛生組合、東久留米市、清瀬市、西東京市で構成する柳泉園組合、これら4つの焼却炉で、小金井市民の皆様方の可燃ごみ処理をしていただいております。

そして、日野に建設をする新しい焼却炉ですが、今年11月からおかげさまで本体工事に入ることができております。平成32年4月からの本格稼働をめざし

て、日野市、国分寺市、小金井市で様々なことに取り組ませていただいております。円滑に32年4月から稼働できるように、着実に事業を進めてまいりたいと思っております。可燃ごみの処理については、以上でございます。

また、2、3ページ目のところですが、主に私の基本姿勢のようなことを書かせていただいております。この後の細かいところにつきましてお話をするので、2、3ページ目は飛ばしますけれども、四つの基本理念ということで、一つは任期の残り2年間をかけて、市民の方々とワークショップを開催する等いたしまして、将来の小金井のグランドデザインづくりというものに取り組ませていただきたいと、このように考えております。また、小金井市が自治体として、行政として、将来にわたって継続して持続をしていくことがとても大事なわけでありますが、そのためには行財政改革というものにも取り組まなければなりません。小金井市の財政状況は大変厳しい中で、市民生活を支援する様々な施策に取り組んでおりますけれども、行財政改革というものに力を入れて取り組んで2年間が経ちました。行財政改革プラン2020という新しいプランを作り上げ、より詳細なアクションプランという、2017年から2020年までの期間の行財政改革プランも作り上げました。これは、行革市民会議の皆様方や、もちろん職員、そして市民の方々や議会の皆様方からも、色々なご要望をいただきながら作り上げたプランです。このプランを着実に実行してまいりたいと思っておりますし、私は、市役所という組織は市民の役に立つ所と書いて市役所と、小金井では呼ばれるような市役所を職員とともにめざして努力したいと思っております。

また、小金井市役所は正職員が690名、そして、非常勤、再任用、臨職と多くの職層の方々が働いています。約1,000人の方々が仕事をしておりますけれども、1,000人働く事業所というのは市内では最大の事業所でございますので、小金井市内最大のサービス事業所をめざして行財政改革に取り組んでまいりたいと思っております。

次に、「公共施設全体の将来ビジョンの策定と庁舎問題の解決」でございます。小金井市が抱えている課題の中で、大変大きなウエイトを占めておりますのが、老朽化した公共施設をこれからどのように改善していくのか、更新していくのかということでございます。特に、私は新庁舎の建設では庁舎の分散状態や大変な老朽化

の解消、防災拠点としての庁舎機能が求められていると思います。また、財政上の課題もございます。市民の方々にとって利便性の高い庁舎の建設、そして、昨年3月31日に閉館をいたしました福祉会館の機能回復、それから、清掃関連施設。ここで申し上げる清掃関連施設と言いますのは、不燃系の清掃関連施設でございます。現在、貫井北町にある中間処理場では粗大ごみやプラスチック、庁舎建設予定地で暫定的に稼働しているリサイクル事業所では缶やペットボトル、古紙、布を処理していますが、これら不燃系の清掃関連施設の再生も急がれており、求められております。大変、老朽化が激しくなっております。従いまして、この清掃関連施設の再整備、庁舎、そして福祉会館とこの三つの課題を先行する形で公共施設の老朽化対策に取り組ませていただいております。公共施設等総合管理計画を策定させていただきました。今後、この方針に基づきまして、下水道、橋、道路、学校施設等、様々な公共施設の個別計画を作りながら、将来世代に公共施設をどのようにバトンタッチし引き継いでいけるのかということに取り組んでいきたい、と思っております。

なお、庁舎と福祉会館につきましては、平成33年度、庁舎建設予定地に竣工することを目標として、様々なことに取り組ませていただいております。私が今、一番、力を入れている、たくさんの方に力を入れておりますが、特に庁舎問題の解決というのが小金井市の長い市政の課題でございましたので、解決に向けて取り組んでいます。なお、清掃関連施設につきましては、貫井北町の中間処理場所在地と二枚橋跡地の北側半分、この2カ所を候補地として考えておりますが、地元の方々のご理解も必要でございますので、慎重かつ丁寧に進めてまいりたいと考えております。

それから、「駅周辺のまちづくりの推進」にも取り組ませていただいております。後程、詳細な話をさせていただければと思います。

それでは4ページ目のところから、現状につきまして皆様方にお話を少しさせていただきます。まず、「子育て環境日本一」をめざすということでございます。小金井市の人口構造の変化は、これから他市と同様にいずれやってくる人口減少、それから生産年齢人口が段々減少し超高齢化に近づいて行く、という状況を小金井市も避けては通れないと考えております。しかし、可能な限り人口減少を抑制し、生産年齢人口を今の状況を維持できるようにするというのが、とても大

切な視点であると思っています。そのためにも、子育て環境の充実ということが非常に大切であると思っていますし、子育て環境を良くしてほしいという市民の方々の願いは大変強いものであります。私が申し上げております子育て環境というのは、一生懸命育てていらっしゃる保護者の方への支援はもちろんのこと、子育てという子どもの立場に立っても、それから単に未就学児だけではなくて、小金井市の伝統でもある小中学校の教育を含めて、切れ目のない支援ということが大切であるということをよく言われております。妊婦さんから、子どもが誕生し、中学校を卒業し、高校を卒業する。その時くらいまで、全体の流れの中で、小金井市として子育てに最良のまちをめざして努力をしまいたいと考えております。

しかしながら、まだまだたくさんの課題もあり、厳しいご意見も多々お寄せいただいているところであります。とりわけ待機児童解消につきましては喫緊の課題として全力で取り組んでおりますけれども、なかなかゼロにならない。私は、これは大変申し訳ないことだと思っています。何としても、早期に待機児童解消を図れるように一生懸命取り組んでまいりたいと思っています。こういった担当職員も一生懸命頑張っております。私が市長に就任してから、平成28年4月の段階で150人くらい定員を増やしました。平成29年4月の段階で229人増やしました。そして、来年30年4月に向けましては、350人以上の定員増を確保してございます。1人でも2人でも定員枠を増やしていけるように、既存園の方々のご努力もいただきながら頑張りたいと思っています。

ただ、嬉しいことではありますが、現在、小金井市は人口が増えております。そして、お子さんを預けたいと願っている方々も大勢いらっしゃいます。まだまだしばらくは、待機児童解消には相当、力を入れていかなければならないと考えているところでございます。一方で、財源も大変伴います。しかし、私としては子育て環境日本一に向けて、市としては将来のためにも子どもたちのためにも一生懸命に行財政改革を成し遂げ、その成果というものをまちづくりや人づくりといった分野にしっかり振り向けてまいりたいと考えております。

なお、平成29年度からは全ての妊婦さんを対象とした妊婦面接を初めて導入いたしました。また、市内初となる認定こども園を緑町の地蔵通りのところに設置させていただきました。認可と認可外保育との利用料の格差が大きな課題となってい

ましたが、今般、市として、補助制度の導入をいたしまして、認可と認可外保育園の格差が生じないように認可外保育所にお子様を預けている保護者の方々への利用料補助制度を導入いたしました。あわせて幼稚園にも、補助制度を導入させていただきました。

保育士不足ということも重要な課題でございます、保育園を増設するためには、保育士さんは欠かせない存在でございます。従いまして、小金井市といたしましては、国や都の色々な補助制度を活用しながら、保育士さんの処遇改善にも努めているところでありまして、特に宿舎、いわゆる保育士さんが住まわれる民間保育園の保育士さんとしてお仕事をさせていただける方々の家賃補助82,000円の上限はありますが、家賃補助制度を導入させていただきました。まだまだ課題はたくさんありますけれども、今はまず待機児童解消が急がれると考えておりまして、その他のことももちろん取り組みますけれども、一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

学童保育の課題もございます。私としては小金井市は全入ということで、小学校1年生、2年生、3年生は、希望者全員が入れるというのが小金井市の伝統でございます。これは今後も一生懸命守ってまいりたいと思っておりますが、保育園に入っているお子様はだいたい基本的に学童保育に入ってきますので、学童保育の利用者が年々増えてきておりまして、おそらく来年か再来年には近々に1,000人を超えるということになります。そうしますと、学童保育の面積が足りないという状況に必ずなります。現在、第三小学校が最もお子さんが増えていて面積が少ないということで、平成32年4月をめざしまして新たな学童保育施設の増設ということを庁内で検討しているところでございます。

また、学童保育だけではなく、放課後子ども教室でありますとか、保護者の方々にとりましての様々な選択肢をこれから作り上げなくてはいけないと思っておりますし、教育委員会と市長部局との連携がとても大切であると思っております。

2020年から、学習指導要領が大きく変わります。特にプログラミング教育というものが入ってきます。また、アクティブラーニングということで、先生が全生徒の前で教えるということだけではなく、子どもたちが自発的、主体的にグループで学ぶなど、学習方法というものが大きく変わっていかうとしております。英会話

などもより実践的と言いましょか、会話ができるような勉強にもっと積極的に取り組んでいこうということで、大きくこれら三つが急いで準備をしなければならないということで、教育委員会の皆様方には様々な取組を行っていただいているところです。

学校施設の老朽化対策も大変重要な課題でありまして、先程申し上げましたように、小金井市の公共施設の約6割が学校教育系の施設でございます。長寿命化を図ることも含めまして、これから学校施設を子どもたちがしっかりと使えるように取り組むことが求められています。そうは言いましても、現状でも様々な所が傷んできており、中には雨漏りしてしまっている学校もありますので、出来る所から限られた財源ではありますが、一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

また、子どもたちにとりましては給食というものもとても大切で、小金井は食育に力を入れております。私が、現在一生懸命力を入れておりますのは、小金井の地場野菜をもっともっと取り入れていただきたいことをお願いをしています。管理栄養士さんや地元の農協の方々を中心に意見交換会が持たれるようになりまして、少しずつではありますが、地元小金井の美味しい新鮮な野菜をより多く使っていただけるような取組が少しずつスタートしてまいりました。

続きまして、皆さんが大変関心のあるテーマであると思っておりますが、「健‘幸’長寿 ささえ愛の小金井」についてでございます。超高齢化社会にこれからどう立ち向かっていくのかということでもあります。人口の予想では、小金井では平成29年10月10日に人口が初めて12万人を超えました。ひと・まち・しごと創生総合戦略の中では、12万人になるのは平成35年でそれがピークになると予想していましたが、6年も早く12万人に到達いたしました。将来、合計特殊出生率等が変わらずにこのままで推移してしまうと、2060年には小金井市の人口は12万から98,000人ほどになってしまい、そして高齢化率は34パーセント、3人に1人が高齢者になっていくということが予想されています。そのような状況の中で、元気な方々が引き続いてより元気でいていただける健康寿命をどのように維持していくのか、伸ばしていけるのかということがとても大切な観点であると思っております。そういう取組とともに、介護予防ということで、小金井市はさくら体操、認知症ケアパスの作成、地域包括ケアシステム構築への準備等、色々なことに取り

組ませていただいております。市民の方にも大変活躍していただいております、小金井は全国で初めてとなりますサブスタッフ制度というものを導入いたしまして、ボランティアの方々が研修を積まれて、デイサービスや介護事業者等でスタッフの方々を支えていただきながら、お手伝いをしていただいております。今後、こういった制度を大いに伸ばしていきたいと考えております。

なお、来年の5月、つきみの園が市内で最後にできた特別養護老人ホームですが18年ぶりに約150床の新しい特別養護老人ホームが貫井北町の国家公務員住宅跡地に建設されます。現在、建設工事が着々と行われております。そこには特養及びデイサービス、それから計画上はそこで働く方々の保育園を創設したいと事業者の方のご意向がございますが、来年5月の立ち上げ段階では全て揃うかは分かりませんが、小金井市にとりましては大変ありがたい施設になります。大いに期待したいと思っておりますが、現在、介護業界は大変な人手不足に陥っております。おそらく、介護の現場での仕事上のご苦労や処遇もあろうかと思っております。保育士さんだけではなく、介護事業所の中で働いていただけるスタッフを確保するというのに、各事業所の皆様方は本当に苦労されておまして、市としてもどのような支援が必要なのか色々と考えていかなければならないと思っております。

それから障がい者施策でありますけれども、現在、小金井市では自立支援協議会の方々を中心として、障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づきまして、解消条例というものを作り上げようということで努力をさせていただいております。

福祉のところを少しとぼしまして、小金井のまちは、6ページの真ん中辺のところですが、「歩いて楽しいにぎわうまち・小金井」というもの、魅力ある小金井というものを作り上げてまいりたいと思っております。「あるものさがし」をしようということをお願いしております。小金井にはいつもあるので、つついその価値や重要性に気付かないでいるが、それが無い土地にとりましては大変貴重であるという物がたくさんあろうかと思っております。大学が多いことや野川という素晴らしい川があること等、小金井市には魅力がたくさんあります。「あるもの磨き」をしていこうことを一生懸命、商工会や観光まちおこし協会の方々とも連携をしながら取り組んでまいりたい。小金井市の魅力により磨きをかけて市内外に発信してい

ける、そのような取組にも一生懸命挑戦していきたいと思っています。小金井市には魅力がいっぱいあります。今日はそういったことにつきましても、皆様方から色々なご意見をお寄せいただければありがたいと思っています。

7ページの所に入りますけれども、主に可燃ごみ・不燃ごみについて今年度の方針に触れておりますが、今年度からごみの収集日を変更させていただきました。先程申し上げましたように、ご支援いただける自治体の枠組みが変わりましたので、その関係で土曜日収集を廃止いたしまして、月曜日から金曜日の平日収集、これが本来の姿ですけれども、元の姿に戻させていただきました。当初は、たくさん市役所に電話がかかってまいりまして相当のお叱りもいただきましたけれども、もうだいぶ落ち着いてまいりました。

また、今年度から枝木や雑草、落ち葉を戸別収集で回収させていただいて全てリサイクルする取組をスタートいたしました。これによりまして、さらに小金井市はごみの減量が進んでおりまして大いに期待したいと思っています。小金井市は可燃ごみのことで大変厳しい、苦しい時代を経験してまいりましたが、市民の皆様方の多大なご努力によりまして、人口10万人から50万人までの自治体の中では、小金井市は1人あたりのごみの排出量が一番少ない自治体となっています。これはとても誇れることであると思います。そして、リサイクル率は49.7パーセントということで、一時期はトップでした。現在は50パーセントを超えたようであります。他にもライバル自治体というのがありまして、互いに抜いたり抜かれたりしているという話を聞きますけれども、小金井市はリサイクル率も大変高い状況でありまして、市民の方々や事業所の方々のご努力だと思っています。

また、ありがたいのは、小金井ではスーパーや事業所の方々が、その店で発生した買い物客のごみを自主回収していただいて、企業努力によって処理をしていただいております。これはとてもありがたい取組でございます。昨年、私も4店舗か5店舗ほど新たに認定させていただきましたけれども、そこに新しく赴任してきた店長さんがいらっしゃいまして、その方は色々なお店で店長を経験されていたのですが、とても驚いていました。小金井市民の方々が店に届けるごみの量が今までには考えられないような量であり、市民の方々の意識が本当に高いと感心されていたことを思い出しております。

話は少し変わりますがけれどもこの7ページの真ん中に書いてありますけど、小金井市には全部で8,500の街路灯がございます。そのうち、1,500はLEDに替わっております。現在、残り7,000全てをLEDに替える工事を行わせていただいております。11月にスタートしまして、来年の2月までに順次替えてまいりますので、取り付け工事で若干ご迷惑をおかけするかもしれませんが、是非お許しいただきたいと存じます。LEDに替えることによりまして、CO2がだいぶカットされますし、消費電力もだいぶカットされます。それから10年位以上もつということで長寿命化されますので、小金井市の財政にも貢献してくれます。照度もより明るくなりますので、夜間の防犯対策の一助となれば良いなと思っております。LEDへ交換作業を一気に行っておりますので、是非、ご理解いただきたいと思っております。

話をしている間に2時半を過ぎてしまいましたので、少し駆け足で行きます。7ページの下ですが、防災対策ですね。私が是非成し遂げなければならないと思っているのは、「地域がいのちを守るまち」というものです。防災は自助、共助、公助が、最近では自助、近助、共助、公助が大切であると言われてます。もちろん、行政も防災に全力で取り組みますけれども、市民の皆様方一人一人の防災意識の向上が欠かせません。そのためにも、自主防災組織というものをもっともっと拡充しなければならぬということで、今までは自主防災組織の設置要件は250世帯でしたが、100世帯に緩和させていただきました。小金井市にはどれほどの自主防災組織があるかということで、自主防災組織がある地域を地図上で塗りつぶしてみますと面積の半分にしかありませんでした。町会や自治会は概ね存在してまして、もちろん、町会や自治会の方々も防災に取り組んでいただいておりますので空白地帯はないと思っておりますが、自主防災組織がある所が面積の半分しかないということは大変大きな課題であると思っております。来年度以降、自主防災組織の拡充というものに一生懸命取り組ませていただきたいと思っております。また、災害時に有効に機能する様々な協定を、私が市長に就任してから、輸送面ではトラック協会、新しい自治体として岩手県久慈市等、各種団体の方々と様々な協定を締結させていただいております。

次に8ページのところでございます。「湧き水と緑・桜を守るまち小金井」とい

うことをごぞいます。最近、市民農園に対するご期待がとても高いということを理解しております。今年、貫井北町に新しい市民農園を1園開設させていただきましたけれども、40区画くらいのところに300人くらいの申込があったと伺っております。現在、栗山公園の北側ですね、元市民農園だった所を、一度は廃園になりましたが、再度、当該地の半分くらいを市民農園として開放できるように準備をしているところをごぞいます。まだまだ足りませんので、市民農園の拡充にも一生懸命取り組みたいと考えているところをごぞいます。

2020年にオリンピック・パラリンピックが開催されるということで、小金井市は競技の開催や選手村等はありませんが、どのようなレガシーを残していけるかということが、とても大切だと思っております。特に、なるべく多くのオリンピックやパラリンピアンの方々に小中学校を訪問していただいて、生で選手が生きてきた道のりや努力している姿を子どもたちにたくさん見ていただきたいと考えておりました、そのような取組を進めていければと思っております。

最後になりますけれども、行財政改革について述べさせていただいております。平成29年度というのは、冒頭に申し上げました小金井市のたくさんの課題を解決する礎を築く元年にしたいと思っております。現在、庁舎、福祉会館、福祉総合計画等々、たくさんの計画につきましてパブリックコメントをかけさせていただいたり、市民の方々とワークショップ等を開催させていただいたりしています。「新しい自治体経営に挑む小金井」ということで、この行財政改革につきましては今後も力を入れて取り組んでまいりたいと思っておりますが、まだまだ道半ばであり課題も多く残されております。今日は皆様方からたくさんのご意見をいただいて、今後の市政運営に大いに反映してまいりたいと思っておりますので、私もまだ申し上げたかったことはたくさんありますが、ここで一旦ストップさせていただきまして市民の皆様方と色々な意見交換をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会者

では、これより意見交換に入りたいと思います。何かご意見のある方がいらっしゃれば挙手をお願いいたします。

○市民A

こんにちは。○町○丁目の○○と申します。今日は、このような機会をありがとうございました。私の住んでいる○町○丁目に都市計画道路が通るということで、2年ぐらい前からずっとその計画に対して、すごく心配していて活動をしています。

それで、3・4・11号線について、意見交換会が非常に少ない人数に限定されて開かれたのですが、皆さんはご存知でしょうか。この計画は公園の中に道路が通り、東町5丁目が真っ二つに分断されます。幅18メートルの道路が通り南小学校の校区が分断されて、ただでさえ越境する子が多いのですが、多分この道路ができたら、道路よりも東に住んでいる子は東小学校に行ってしまうと思います。あと、もしかきつね子供会というのが東町の中でも加入者が多く、とても盛んな子ども会なのですか、そちらの方が拠点となっているあおぎり公園もなくなります。子ども会の運営も非常に難しいと思っています。この計画をなかなかご存知ない方もいて、皆さん危機感がちょっと薄いと思うのですが、やはり子どもは気にしているんですよね。親が色々話しているのを聞いてお母さん住めなくなるのと言う子もいますし、大人は大人の事情で色々考えがあるのですけれど、子どもにとっては非常に大きな問題で、うちの子供が仲良くしている子とも道路で分断されてしまいますし、小さな胸を痛めている子どもたちが大勢います。

私たちはこの計画に反対か賛成かということはとりあえず置いておいて、とにかくそのコミュニティがなくなるということと、はけの緑と野川の景観が台無しになってしまうと思いますし、そういった非常に大きな民主的に考えていかなければならない問題だと思うのですが、一応、東京都は1962年に計画決定しているとしています。計画決定しているということに納得がいきませんし、都が挙げている理由、延焼遮断帯の形成だとか交通渋滞の解消、広域避難場所へのアクセス向上等の理由でコミュニティを破壊して、立ち退いてということなんだと思うんですけど、それが非常に納得いかない。納得がいかないと思っている方がすごく多いのですが、住民の合意形成が出来ていない状態なんですね。東京都は本当にやる気満々で来ています。建設局の方が整備を進めるに当たって皆さんの意見を丁寧に聞きたいと言っているが、私たちは立ち退かなければならない理由に納得できないという

ことで言っているわけなのです。

市のほうで、私たち住民と東京都との方で調整役をしっかりとやってほしいというのが私の願いです。市長も、どう思っているのかは分かりませんが、東京都へ傍聴を許してほしいとかそういうことを色々と申し上げたのですが、結局最後まで許可されずに、現場に人がたくさん来たものですから最終的には入れてもらったのですけど、小金井市には市民参加条例もありますし、小金井ルールに則ってやってほしいということを9月の段階でずっと申し上げていたのですが、最後まで調整していただけずに意見交換会というものが開催されてしまったことを私は残念に思っております。

今までの経過を見ますと、市の方は私たちの意見を東京都に伝えてはくれますが、ただ市民がこう言っていますとただ伝えているだけなんですね。伝言ゲームをしてほしいのではなく、こうは言っているが市はこのように調整できるけどどうする、とかもう少し具体的に調整してほしいなと思うのですが、住民の納得感をもって。もし道路ができるのであれば、私たちが大切にしているはけと野川の景観が壊れるわけなので、後世に検証ができるようにしっかりと市のほうで対応していただきたいと思います。この件について、別に質問ではないのですが、市長としてどう思っているのか分からないので率直に計画についてお考えをお聞かせいただけますか。

○西岡市長

大変熱心にご活動されていることは伺っておりますし、何度か市役所にお越しいただいております。たくさんの要望書や地元の方々の声も市役所に届けていただいております。まず、私も子どもたちから、この道路についての意見や声を聞くこともあります。子どもたちからの声、例えば、二中に行くと、「市長さん」という事で道路に対する声を聞くこともあります。私も子どもたちの声は、全員ではありませんけど、そういった声があるということは把握をさせていただいております。

この間の議会でも答弁させていただきましたけれども、市民の声や議会でも陳情が採択されていること、そして野川やはけは小金井市の大切な財産であるということ、私も野川で育ちましたし、そういう意味では自然を大切にすることよく分かっております。そして、地元への配慮を欠くような道路の事業化については、

私としては両路線とも希望いたしません、ということで東京都にも直接、私の市長としての考え方を伝えてまいりました。

一方で、見直しや、あるいはこの道路に対して賛同しかねるという様々なお声、パブリックコメントを含めていろいろな声が市役所にお寄せいただき、市役所に寄せられた声は欠かさず東京都に伝えてまいりました。私の思いとしては、市民の理解がなければ事業化を進められないと思っておりますから、東京都と市民の方々が初めて向き合う意見交換会を開催したわけですが、先般の意見交換会は意見交換会にもなっておりません。前段の部分、入り口の所でいろいろなやりとりがあつて、資料の説明も行われていないという意味では、意見交換会を行ったという実績にはならないのかなと考えてはいます。私が聞いている限り、都はこれからも引き続き意見交換会を開催し、また、数百人規模の意見交換会も開催したいというふうに聞いておりますので、都の考え、地元の市民の方々の考え、これはとても大切なので、まずは意見交換会をやっていくということが都にとっても必要だし、市民の方々にとっても必要だと思っております。先程申し上げましたように、市民の合意・理解がなければ事業を前に進めることはできないということは、東京都のほうも良く分かっているのではないかと私は思っています。一方で、都市計画マスタープランというものがあつて、これは市民参加で作りましたものですが、3・4・11につきましては推進を要望していくということが書かれています。それから、3・4・1については見直すべきという視点で明記されております。この都市計画マスタープランは、平成34年度から新しい都市計画マスタープランを作り上げることになっていて、その準備が始まりますけれども、この都市計画マスタープランがあるということも一応踏まえつつ、私としては、あくまでも地元への配慮を欠くような事業化というものは望まないというスタンスで、これからも取り組んでまいりたいと考えております。

もっと具体的に調整していただきたいということなのですが、担当も私も東京都に対しては、市民や議会の方々からお寄せいただく意見についてはお伝えするとともに、例えば傍聴などについても是非認めていただきたいと、市としても要望しているんですね。しかしながら、東京都と調整がつかなかったこともございます。しかし、今般11月17日に行われた意見交換会では、結果的にそこに来られた方々

は全員会場の中に入れたと聞いておりますので、今後、傍聴については認めていただけると考えておりますし、そのように要望していきたいと思っております。ただ、あの時は傍聴を認めませんよということで、本当は会場に入りたかったのだけれども、そういうことであれば会場に行きたかったという議員さんもいらっしゃいましたので、今後の傍聴についてはもっとルール化していただいて、東京都には丁寧に意見交換会に取り組んでいただきたいと思っておりますし、そういった声を伝えていきたいと思っております。以上です。

○市民A

ありがとうございます。一言、この意見交換会は事業化を進めるためというふう
に建設局は言っています。どんな道路が良いですか、皆さんの意見を丁寧に聞いて
進めますと言っています。なので、私はこの意見交換会の開催自体、非常に遺憾に
思っております。すみません、以上です。

○司会者

他にご意見のある方は・・・。

○市民B

ごく簡単に、数点。昔は、小金井市は至る所に町工場があったんですね。一大
工業都市だったんですよ、小金井は。今は、町工場なんか作ろうものなら近隣から
うるせえうるせえと言われて出来ないのだが、小金井市の方針としては、あくまで
も農業と商業、特に商業のまちにするのが一番良いのではないかと思うのですよ。
商業のまちとするには、武蔵野市や三鷹市とかいろいろな所を参考にしてやるより
他はないと思うんですよね。あくまでも商業が中心だという方針は、欠くことはで
きないと思うんです。

あと、建物の老朽化ですね、きりがいいんですよ。ジャノメの跡地に市役所と福
社会館を作ると言っても、竣工した瞬間から老朽化が始まるわけですから。小学校
にしろ中学校にしろ大学にしろ、まあ大学は自分でやるからいいだろうけど、小学
校や中学校は市営だから、作った瞬間から老朽化が始まるからきりがいいので、経

常的な予算配分を何としても考えていかなければならないと思うんですよね。

市民農園の拡充ということがありましたが、小金井公園の前の方、それから小金井公園と五日市街道に挟まれている土地にアパートやマンションがいっぱいありますが、あの近辺の農家に見学へ行きましたところ、農家のご主人が東京都から小金井公園の土地を借りているんだよなと言ってしまう、しかと聞いたんですよね。東京都から借りている土地を自分たちで耕作して、作物を市場へ出して金儲けをするのであれば、もっと市民のために一坪ずつくらい貸してやったって、その方が平等の原理にあてはまるのではないかという気がするんですよね。そんな農家がありましたので、もし本当だったら不公平だと思うんですよね。

最後に、道德教育を小中学校でやると言うのだけれど、僕の子ども時代の日本かと思えるくらい小金井の市民は礼儀正しいですよね。年寄りを敬うし、自転車ですれ違うときは頭を下げしてくれるし、礼節は申し分ない。プーチンが日本に来たけれど、我々ソ連は戦争に勝ち、日本は負けたのになぜこんなに差が開いたのだろうかと思ふやいたらしいけど。だから礼節は申し分ないから、もっと実学的なものに重点を置いて教育をするべきだと感じますけど。以上、4点ばかりをすいませんどうも。

○西岡市長

ありがとうございます。貴重なご意見として受け止めさせていただきます。その上で、庁舎と福祉会館ですね。確かに建てればその瞬間から老朽化が始まるということでありましたけれども、私が目指したい庁舎と福祉会館は、個人的な思いですけれども、シンプル、長持ち、頑丈プラス小金井らしさというところを大切にしていきたいなと思っています。市民の方々にとって使い勝手の良いもの、そして、途中で手を入れて場合によっては改修もするかもしれませんが、50年、100年と長く使える長寿命の市役所が良い。それから、防災の拠点になりますので。市役所には災害対策本部ができますし、福祉会館には、災害時に市民サイドでボランティアセンターができます。そういう意味では、ジャノメの跡地は一大防災拠点にもなりますので、頑丈さもとても大切だなと思わせていただいております。プラス小金井らしさというところも。小金井らしさというところは、ワークショップ等を開催しましたが、市民の方々の声なども是非取り入れて、環境面や機能面で庁舎に

色々なアイデアが反映されればいいなと思っております。以上です。

○司会者

次、どなたかいらっしゃいますか。

○市民C

〇〇町在住の〇〇と申します。お世話様になります。今日はですね、秘書・市長室の前係長さんなのですが、市長に直接話ができるので座談会で話をしてくださいということでしたので、お伺いさせていただきました。それで近隣の方、今日は3人の予定だったのですが1人体調が悪いのでお2人の方が同席してくださっています。

先程、話にも出ました、街路灯の件なのですけれども、私もいろいろ生活に支障が出ていて、その時は東電のことが問題だったのですが、エネルギー庁さんにちゃんと連絡をして、私が貸している電柱は街路灯を外していただきました。その後、ご近所の方が防犯上ということで市役所がお見えになられたそうで、その判断は前課長さん一人がなされたということですね。交通対策課ですけれども、皆さんご存知ないと。そのことについても、稲葉市長さんから西岡市長さん、その時はまだ市長さんが決まっていなかったもので、新市長さんへ申し送りということで要望・意見カードは出させていただいたのですけれども、何故か広報担当のほうで市民への回答は出さなくていいですよと、庁舎内で処理されているみたいで、それで延々とやっているわけですね。それで課長さんとのいろいろ面談もやりました席で、取り付けたのは正当である、私たち4人に対して業務妨害という発言がありましたので、そのことについてもちゃんとやっていただきたいというのもありますし、取り付けられた所の移設を依頼ということでお願いしたんですけど、それもまだ解決されていないんですね。それで、先週も課長さんとお会いしてお話したんですけど、どうも内部の調整がうまくいっていないようなので、ここで改めて。今、私は生活に支障が出ているんですね。市民の生活、安全と行政を守るのは行政でいらっしゃいますので、その長でいらっしゃる市長様に今日はお願いに上がったんです。早期解決をしていただきたい。また、内部の調整もきちんとやっていただきたい。それ

で、街路灯に関しては市役所が委託業者に出すわけなんですね。だけど、申請書が必要なんです。その申請書がないと街路灯は設置できません。その申請書に関しても、担当課と委託業者の間で言った言わないがいまだに続いていますので、なるべく市長さんのほうで庁内の整理を早くしていただいて、安心して生活できるようにお取りはかり願いたいと思ひまして、今日は伺ひました。よろしくお願ひします。

○西岡市長

ありがとうございます。今、ご近隣に付いている街路灯を別の場所に移設してほしいということによろしいですか。

○市民C

最初はそうだったんですけど、もう設置された時点で違っているんです。だから、今は街路灯撤去ということでお願ひをしております。

○西岡市長

街路灯を撤去してほしいと。後ほど、個別に。

○市民C

申し訳ございません。今、ここでやるにはちょっとね。庁舎の中でも、交通対策課、広報広聴課に地域安全課、道路管理課と4つ絡んでいきますので。よろしくお願ひします。すみません、皆さんありがとうございます。

○司会者

他に・・・。

○市民D

○町○丁目の○○と言ひます。時代のはやり言葉かは分かりませんが、行政の公正・公平化という言葉があります。東町は、道路問題とか市長が先程からも出たごみの問題やらいっぱいあるということで大変だろうと、ご苦勞は理解しております

が、市の職員の方と時々お話をすると、何か我々が寄って頼るところがないので、行政の公正・公平化の面からということを書いて理論を展開しますと、議論が合わないんですね。ピンボケというか、私の方はそう感じるんですけど。職員さんの方は、別な感じ方がおありかも分かりません。それで、冒頭ご説明がありました、市長の施政方針ですか。通常、どこの市も市条例みたいな、国で言えば憲法のような規範があるので、それを拝見してじっくり読ませていただいたのですが、確かに公正・公平の市政というか行政という言葉が見当たらないですね。当然、それは憲法で定められている市民の公正、第14条で定めていますから、我々が当然要求してお願いできることだろうと思って言うんですけどなかなかみ合わないの、今日のこの場で、市長さんに来年度の施政方針の中には、市政にあたって行政の公正・公平であたっていただきたいということを、是非、記入していただけないかということでございます。

○西岡市長

貴重なご意見、ありがとうございました。公正・公平でなければならないというのは、ごもっともなご意見だと思います。そういう記述が見当たらないということでもございました。調べてみたいと思いますけれども、小金井市の基本構想や行革プラン等々、公平・公正という言葉は一切使っていないのか、どこかにあるような気はするのですが、とても大切な視点でありますので、しっかりご意見として受け止めさせていただきますし、そういった記述があるとすればどういった部分で小金井市がしっかり記述しているのか。後程、調べてお伝えさせていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

○市民E

○町の○○と申します。初めて参加させていただきました。このような機会を設けていただきまして本当にありがとうございます。先ほど、話にありましたように多岐にわたる問題が山積されており、一方で市の財源もかなり厳しい状況であると思えますし、それを執行する市の職員も限られている中で、日頃から何を優先していくかという知恵を出して悩まれているかと思いますが、是非、一つ意見として言

っておきたいことがあります。

今、宮地楽器ホールというネーミングライツというのですかね。いわゆる命名権のことですけれども、話に聞くとところによりますと、来年の3月末まで契約によって宮地楽器ホールという名前でいくらしいですが、是非、4月1日以降はその名前ではなく、条例で決めた本来の市民交流センターという名前にしていただきたいというのが要望でございます。

その理由は、まず市民交流センターという名前の方が、その役割や目的が非常に明確になると思います。一方で、今の宮地楽器ホールという名称は一企業の名称であって、名前からするとどのような目的で何をするのかが分からないと思います。聞くとところによりますと、市民交流センターを作る段階、設計段階の姿勢としましては、やはり市民の交流を行う場所であるということと聞いております。従って、一般的なホールとしましては、例えば演奏会や劇場なんかは、今の交流センターの3階や4階部分がああのイメージだと思いますが、まさに市民の交流のために設計されていると思います。特に1階部分というのは、市民が出会って、交わって、という場所として作られていると思います。そういう理解からも、一企業の名前ではなく、本来のもつ設計思想に沿って市民交流センターのほうがいいのではなかろうかと思えます。

あと二つ理由がありますけれども、二つ目の理由は、市が交流センター購入のために47億円くらいの市の予算・税金を注ぎ込んだと聞きましたが、その他にも毎年2億数千万円程度が市から運営費として出ていると思います。その中で、宮地楽器ホールは、年間300万円を出していると聞いておりますが、公的な施設に一企業の名前を付けるということは、公的な施設の機能、イメージを損なうものだと思います。知らない人が見ると、一企業である宮地楽器の施設であると受け止める人が多いのではないかと思います。市民からすると、元々は交流のために多額の税金が支出され、しかも運営費として毎年2億数千万円も出していると。それでいて、ホールとか小ホールを利用する際はそれなりの利用料を払って使うわけです。市の所有物なのに発表会などのチラシやポスターを作る時に、場所は宮地楽器ホールと書くわけですが、何で市の所有物なのに一企業の宣伝めいたことをしなくてはならないのか、という抵抗感があるとかなり聞いております。わずか年間300万円の

ネーミングライツ収入を得るために、かなり大きなものを失っているのではないかと、ということで、そういう意味では小金井市の品格と申しますか、そういうものを問われるのではないかと私は受け止めています。

三つ目なんですけど、今や小金井の交流センターというのは、小金井市を代表する大きな顔になっているのではないかと思います。したがって、むしろそれは名前を市民交流センターとした上で、小金井として大々的にPRをして小金井の存在感を高めた方が良くはないかと思えます。現在の交流センターの使い方を見ていると、市民が交流する場所であり、文化や芸術の拠点であり、市民のいろいろな要望を受け止めて行事等をやっていると思えます。もう少し具体的に言いますと、市民が自分たちで作った絵や写真等の作品を発表する場であり、同時に、市民が小金井市のことを知る良い機会であり、市民が国内外の文化や芸術と接することができる場であり、子どもを育む場でもあると思えます。また、ある側面から見ると市の産業振興にもかなり貢献しているのではなかろうかと思えます。そういうことを考えると、宮地楽器ホールという名前ではなく、小金井市民交流センターという名前にし、もっと小金井市は文化都市をめざしていると思えますし、小金井市には有名な文化人も多いと思えますが、そのような面をもっともっと小金井の顔として打ち出す。そういうためにも、ぜひ名前を変えていただきたいと思えます。

武蔵小金井のホームに立ってみると宮地楽器ホールという大きな文字が出てきますし、夜になると大きなネオンサインが見られます。同時にそれは、中央線を使っている通勤客、あるいは特急列車の乗客にも見えると思えますけど、そういう人達から見ると宮地楽器ホールというのは一企業の施設ではないかと受け止めていると思えますけど、そうではなくて市の施設でありますから、本来の設計思想に基づいて小金井市民交流センターという名前にした方が良くはないかと思えます。そもそも、どのような経緯で年間300万円というネーミングライツを設定したのかは分かりませんが、市の400億円という一般財源予算とか、もともと47億円という税金を使って購入した経緯とか、あるいは経常的に使っている2億数千万円というお金を考えると、300万円というのはいかにも安過ぎる。それで、多分こういうことは近隣の市でも他の地区の市でもやっていないのではないかと、思うのです。味の素スタジアムは、東京スタジアムという株式会社、資本は元々近

隣の地方公共団体が出しているということですが、あくまでも株式会社がやっていて、しかも年間2億円のネーミングライツ料が入ってくるということなんです。八王子のオリンパスホールは2,500万円です。それから、立川の何かは1,000万円くらいのネーミングライツ料が入ってくると思うのですが、300万円の価格というのが、市がやろうとしていることと市民の思いがかなり乖離しているのではないかと私は認識しています。財政が厳しいことは充分理解できますけれども、できることならば、来年4月1日以降は本来の市民交流センターという名前に戻していただきたい、という熱い思いがあります。よろしく願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。そのような議論が、何かの審議会か協議会の場でも意見が出されたという話を担当からは聞いております。ただ、私自身は、宮地楽器ホールではなく市民交流センターという名前に戻してほしいというご意見は、今、初めて聞かせていただきました。3年間の契約をさせていただいて、今年度いっぱい契約が満了するという状況であります。〇〇さん、大変申し訳ないのですが、私としては、このネーミングライツによる収入も、単年度ではありませんので市にとってはたいへんありがたいことであると思っております。確かに市民交流センターは芸術・文化の発信の拠点であり、市民が交流する施設です。開館から5年が経ちまして、6年目を迎えております。稼働率は大変高く、大ホール等は1年半先もどんどん埋まっていくということで、市民の方からは、なかなか取れないではないかというお叱りをたくさんいただいております。宮地楽器ホールについては、様々なご意見をいただいております。しかし、南口の第1地区再開発事業によって、旧公会堂が閉館し、座席数は880くらいから580くらいに少し減ってまいりましたが、駅前の非常に立地条件の良い場所に展開ができました。これからもホールの機能というものは、市民の方々に長く愛され、親しまれ、大いに有効活用していただきたいと思っておりますが、ネーミングライツという制度については、私としては引き続き継続して導入していきたい、というのが基本的な考え方です。行革プラン2020には、まだまだ庁内検討の段階ではありますが、総合体育館や栗山公園健康センター等についてもネーミングライツの検討をすることになっ

ています。

ご主旨はよく分かりました。宮地楽器ホールという一企業の名前の宣伝効果ばかりが露出してしまっていて、本来の目的が分かりにくい、名が体を表していないではないかというご意見は承りますけれども、ネーミングライツという制度そのものの活用は、市にとりまして大きな効果があると思っております。議会のほうからも、ネーミングライツの効果をもっと多角的にしっかり分析するべきだというようなご意見、これは前向きな意見の中での意見として寄せられていまして、私としては、引き続きネーミングライツの活用を図っていきたいと思っております。なお、宮地楽器ホールは、現在、正式名称は小金井 宮地楽器ホールとなっております、ホームページ等でもこの名称を使用しております。

○市民E

財政事情が厳しいというのは分かりますが、300万円というのは小金井市の財政支出額全体に比べて極端に低いと思います。それだけで、一般の人は宮地楽器の所有物であるかのように受け取ると思うんですよね。最悪、ネーミングライツを継続する場合であっても、例えばサブタイトルで小金井市民交流センターと記載する等した方が良いと思います。現在のホームページを見ますと、小金井 宮地楽器ホールとなっていて、市民交流センターという、条例上の本来の正式名称が1回も出ていないんですよ。そこは市長さんも重く受け止めていただいて、そういった工夫をしていただきたいと思います。

○西岡市長

ありがとうございます。市民交流センターを立ち上げた時には、市民参加で、色々な会議体ができまして、多くの方々のご意見を取り入れました。おそらく、発言者の方も立ち上げに関わられて、熱い思いをお持ちのことと思います。市民が交流する拠点の一つであるということをお大切に受け止めさせていただいて、これから考えさせていただきたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

○市民F

○町から来ました、○○です。まず、この座談会。市長と近い距離でお話ができる機会を設けていただき、どうもありがとうございました。先程のお話でもここ数年の間に、待機児童が600人超えの解消されたとか、健康長寿のために全国的にも新しく先駆けたサブスタッフ制度とか、大きく新たに小金井市が動き出しているなという感じがしています。ただ、限られた財源の中に、どなたかおっしゃっていたように、やらねばならないのがこれだけではなくて、例えば下水道の整備ですとか、雨漏りがするような学校は補修、補修ではだめで、いつかは建て替えしなくてはならない。あと、図書館や公民館もそうですよね。公民館の電球がいくつか外されているとか、パーティションは動かすときに気を付けないと壊れてしまうとか。そのような状況でいくつかこれから先に必ず、絶対迎えなければならないものがたくさんあると思います。そこには、限られた財源ですから、優先順位を付けていかなければならないと思うのですが、その優先順位の付け方が、声高で声大きい方、主張するのが強い方の意見ばかりではなくて、本当に小金井で何が必要かということとを、ちゃんと順番に見ていかなければならないと思います。

例えば、小金井市は緑豊かな小金井市と言われるのですが、皆さんが小金井市の緑豊かと言えば、小金井公園とか、武蔵野公園とか、大学がたくさんあるとか、言うと思いますが、これらは全て都立公園であったり、小金井市の物ではないんですよね。でも、本当は小金井には緑があるのです。例えば、北側にある浴恩館公園とかそういう所は自然が豊かで、雑木林という死語になっているような森になっているのですが、声高ではないので見捨てられている状態になっています。小金井市には、文化財センターが浴恩館の中にあるのですが、耐火設備がないので、文化財は置いてあるんですけども火事になったらあっという間に焼失。小金井市は他のところから、例えば府中の美術館などは他から何とか展示会とか特別何か会とかどこかから何かを借りてきました、というのをやっているんですけども、小金井市は耐火設備がないので、他の市の所からは何も貸してもらえない。そういう直さなければならぬ物が山ほどいっぱいあって。

例えば、町会とか自治会とかも、日ごろ皆さん普通に町会・自治化に入っていて、これから何をしようなんて言えませんが、それもとてこれからは大事。防災組織もそうですよね。小学校等で避難所を運営するのは、町会や自治会、自主防災会が

中心になるので、その中心になっている人を集めて制度を作るとか、いろいろやらなければいけないことがたくさんあると思うんです。その時に、今までの考え方、今までの市役所のあり方とか、市民のあり方とか、議会のあり方とか、そういうことではうまく成り立たないことが山ほどあると思うんです。今、市民協働とか、官民協働とか、官民連携とか、民の力をどんどん入れて。民でできることは民で、官でできることは官で。こう言うては何ですが、民間の方が新しい情報とかをどんどん取り入れて、全く新たな考え方、例えば図書館でコーヒーを飲めるとか、そういう新しい試みも民が入るからこそできるかなと思います。なので、できるだけ官と民で協働しながら、新しい考え方や市民の力、そういうものをどんどん取り入れて市の行政を活発にしていきたいと思っています。

小金井市民というのは本当に力がある方が多いと思いますので、どんどん行政の中に入って一緒に市を良くして行ければ良いなと思っています。私の大先輩の方が、住民ではだめ、私たちは住んでいるだけでは住民で、市民にならないといけない話をよくする方がいるのですが、小金井市には市民になる実力のある方がいっぱいいるかと思っていますので、どんどん取り入れていっていただけたらと思っています。以上です。

○西岡市長

貴重なご意見、ありがとうございました。私も大変同感できるご意見をいただきましてありがとうございます。おっしゃるように公共施設の老朽化は大変大きな課題で、あくまでも試算ですが、総務省に基づいて試算をすると、小金井市が保有している公共施設の老朽化対策について、全て更新して対応しようとする総額1,500億円かかるという試算結果があります。これを5年10年で行うのは、小金井市の財政状況では不可能、私はできないですね。たくさん市の債を残すことになりますから。従いまして、優先順位を付けていく。そして、なるべく整理・統合・集約・複合化等、いわゆる公共施設のマネジメントをしっかりと行っていくことが求められておまして、現在、庁内で公共施設等管理総合計画に基づきまして、庁内でいろいろな議論させていただいております。また、資産の有効活用ということを小金井市はあまりやってきておりませんので、不要となった公共施設や公共用地等

の有効活用、例えば定期借地で土地をお貸しするとか、こういう取組も考えていかなければならないと思われる場所もあります。

何よりも、私は学校の施設が本当に心配でありまして、学校は一日たりとも休校にするわけにはいきませんので、子どもたちがちゃんと通いながら、勉強しながら、どうやって施設を将来につないでいくのかということが大きなところだと思っています。

また、学校ということで申し上げますと、施設とは異なりますが、実は小金井市は開かずの踏切の状態のまま保持されているものがたくさんあります。例えば学区もそうです。小中学校は開かずの踏切の時ままの学区なので、高架線になったことにより、ある学校には100メートルか200メートルで行けるのに、現在は非常に遠い所へ通っている方もいらっしゃいます。それからC o C oバスもそうです。C o C oバスの路線も開かずの踏切の時に作った路線が、あれから8年経ちましたけれども、現状そのままでありまして、南北の路線があれば良いのにと声をたくさん聞いております。この点につきましては、ご質問にはありませんでしたがC o C oバスにつきましては、33年度末に庁舎と福祉会館をジャノメの跡地に建設したいと思っておりますが、このためだけではありませんが、せっかく開かずの踏切が解消されて高架化になっておりますので、そろそろC o C oバスの路線についても、議論の結果残される路線もあるかも知れませんが、総合的な見直しですね。それからワンコイン、100円で乗れるというのは魅力の一つであります。C o C oバスというのは福祉目的でもありますが、実は、5路線あるうち4路線が赤字でございます。総額3千数百万円を市が補てんしているということです。これは、福祉目的だからそれでいいのではないかという意見もあります。一方で、行政がやる事業としては採算性も考えなければならないというご意見もございます。料金改定、路線、S u i c a を使えるようにするといったことも含めて、C o C oバスの見直しをしていきたいと思っております。

また、もっと市の自然、市の保有しているものをもっと、魅力を発信していくべきだということについては、たいへん私も同感でございます。私は今、ジェイコムで長々と散歩という番組で、まあレポーターとしてあまり威張れる仕事はしていませんが、一生懸命、街の魅力を市内外に発信しています。非常に有効で大切なツ

ールだと思っております、先般、紅葉の季節に放映されるということで、浴恩館公園と文化財センター、それから滄浪泉園の2つを散歩させていただいて番組を作らせていただきました。もっともっと、文化財センターなどに、例えば空林荘を復活してほしいとか、浴恩館公園にいつも水が流れるようにしておいてほしいとか、文化財センターの耐火性について、空林荘は焼けてしまっているのもっと頑丈にしてほしいという声などをたくさんお寄せいただいております。一定財源が伴うことになるのですが、浴恩館公園も小金井市の大きな財産でございますので、今後、公共施設等管理総合計画も踏まえながら、浴恩館公園全体を将来世代に引き継げるように頑張っていきたいと思っております。

それから、民間活力の導入につきましては、一生懸命図っていきたくと思っております。以上です。

○市民G

〇〇町に住んでいる〇〇と申します。いつも、どこでもドアで、81歳なんですが、元気に行くというのが健康のためにも良いと思うし、それから知的な好奇心ですね、それは小学校の頃から皆さんの教育の中に、梶野町ももちろん、小金井市では知的な好奇心を旺盛にする教育をされているとは思いますが、それが、現在元気で働く、まだ桜町のほうに、サブスタッフの養成をきちんと受けまして。それから、課長さん、事務局長さんがやっているオレンジの、あれ（認知症サポーターオレンジリング）もいただきまして、でも腕が細くなって、下を向けると落っこちてしまうので改良してくださいね。一応、意見として。軟らかいとなじむんですけど、突っ張っていますので、手のところにやると落として一つなくしてしまったのですが、また桜町でもらいましたけど。それを散歩の時は必ずして、意識を持って散歩をする。それが私たち高齢者の使命だと思って、近所の方にも、歌はあまりあれですけど喋ることが大好きなので、頭を回転させながら、近所に一人の方が結構いらっしゃるんですね、梶野町は。そこへちょっと行って、お昼はどういうふうにして食べているのかなとか、色々な対話の中で。そうすると、セブンイレブンなんかが多いですね、配達で来るということで。私もJA応援団なので、是非、野菜は私たちの元気な力を使っていたきたい。それは思います。役職がどうのというのではなく

て、元気な方に野菜の種別、汚い部分を取ったり、その後洗ったりとか、そういう応援団をサブスタッフとしてグループを作っておいてもらって。梶野町で農家さんが忙しいという時には、じゃあ2人ほど出てと言えば飛んで行ってお手伝いをする。そういう細かい、サブの仕事を活発にやっていると、私たちは病院に行くより、地域活性化のお手伝いをした方がよっぽど嬉しいんですよ。病院に行くよりは嬉しいです。病院に行っておしゃべりをしているというのは、あまり元気にならないですから、地域で活性化を是非、お願いします。

○西岡市長

ありがとうございました。大変、心強いご意見がありましたし、自らも実践されているということで、とても心強く思っております。ある種、小金井市の模範となるような活動をしていただけていることに感謝申し上げます。おっしゃるとおりですね。私も100歳になった方の訪問をしています。長生きの秘訣は何ですかということをお聞きしますが、返ってくる答えで大体共通しているのは、私は何でも食べますという人がまず多いですね。私なりにいろいろその方の声や、あるいは専門家や医師、学者さんの話を聞くと、歩くことと笑うことがとても大切であるということをお聞きしています。100歳の方で大変驚いたのが、桜町にお住まいだった元教員の女性で、着替えも入浴もお食事も一人でできる。そして、息子さんがいらっしゃって、「西岡さん、うちの母の歯を見てください。」100歳で20本、全部自分の歯なんですね。びっくりしました。歯医者さんに、そういうことって可能なんですかと聞くと、多分120年間は使えるように設計されているはずだよと言われましたけれども、歯並びもきれいですごいなと思いました。最近、口腔医療、歯や口は体の玄関ですから口の中は健康のためにとっても大切であるということをお聞きの方々に啓発させていただいております。また、傾聴することというもの、とても大切だと思っております。語ることによって心が晴れる方もいらっしゃいますので、是非、続けていただきたいと思っております。

野菜の農家のボランティアをもっと充実させたらということですが、小金井市には援農ボランティアという制度がありまして、先日の農業祭の際に、私の所に5、6人の方々が来られて「とても楽しくやっています。土に触るのが大好き、野菜作

りが大好き。」と。小金井では家庭菜園を愛好する方がとても多いですね。もちろん、都市農地や都市農業を守りたいということもありますけれども、家庭菜園などに取り組む市民の方々をもっともっと応援していける制度、市民農園やJAの方々との共同作業ですとか、そういったことにも取り組んでいきたいと思っております。

最近、私が注目していてやはりこれは大切だなと思うものは、さくら体操です。私の母もさくら体操をやっていますが、ちょっときついと言います。そのちょっときついというのが、とても大事なのだなと思います。行くと友達がいっぱいできて、割とみんなとお茶に行ったりしているようですが、このさくら体操の輪をもっと広げたいなと考えております。ありがとうございました。

○司会者

他にございますでしょうか。

○市民H

こんにちは。○町に住んでおります○○と申します。私、ここに来る前に小金井公園の方に行ってきました。陶器市というのをやっていて、大変すごく賑わっていて楽しんでしまったので、こちらに遅刻してしまったんですが、陶器市だけではなく、小金井公園は週末にいろいろなイベントがあって、以前、梶野町に住んでいたものですから、よく週末は子どもを連れて小金井公園に行って楽しませていただきました。

○町に引っ越しまして、連雀通り沿いなのですが、今度は武蔵野公園が近くにあるんですね。こどもが小さかったので武蔵野公園に遊び場が移ったのですが、小金井公園とは全然違った趣のある公園で、ほとんど何もない。遊具もなければ企業がやっているような大々的なイベントも全くない。その代り、市民の皆さんが手作りでやっているようなお祭りとか、最近は朝市とか、駅伝とか。そういう手作りのお祭りやイベントがたくさんあって、すごくいいなと思っています。

それで、うちの子どもは保育園が坂下にあって、園庭のない保育園だったものですから、武蔵野公園が園庭の代わりをはたしてまして、毎日そこへ行って元気に遊

んでいるんですね。そういう愛着がある公園なんですけど、そこに道路計画が出てきてちょっとびっくりしてしまっています。当然、保育園から武蔵野公園に行くまでの距離の所にその道路が通るということを聞きまして、公園まで行く道のりも子どもたちは楽しく和気あいあいとお話なんかをしながら行くのですが、その環境が変わってしまうことをとても危惧しています。

あと、道路計画と一緒に武蔵野公園の公園整備計画というものが出ているのを市長もご存知かと思うのですが、やはり、公園というのはそれぞれに役割があると思うんですよね。同じ市に似たような公園はいらないと思うんですよね。小金井公園と武蔵野公園は全く別の役割を持っていて、全然違う形の公園として存在していると思うのです。それで公園整備計画を見てみると、どうも小金井公園の方に寄っていったのではないかと心配しております。公園ですからある程度人の手は入っていますが、武蔵野公園は手付かずの公園で、雑木林があったり、くじら山があったり、遊具も全然ないですし、野川もあって自然のままに近い形の公園として今まであったと思うんです。それがこの公園整備計画によって壊されてしまう、新たな公園として新しく小金井公園のようなものになってしまうのではないかと危惧しております。武蔵野公園も都の持ち物ですから都が計画していくのでしょうけれども、やはり小金井市の中にある公園ですから、小金井市としてこの公園をどのようにしていきたいのか、というビジョンを都に訴え続ける必要があるのではないかと考えています。その辺を、市長は今どのように考えているのかをお聞かせいただきたいと思います。

○西岡市長

ありがとうございました。武蔵野公園のビジョンということですよ。あの一带は、私も自分が子どもの頃育った場所なので、毎日のように日が暮れるまで遊んでいた、野川、くじら山、第一調節池、第二調節池、80階段、野川公園。もうあの一带は私のふるさとというか、遊び場、大切な場所です。あそこの魅力というのは、まさに野川、国分寺崖線、坂の形状、緑の多いこと、空が広いこと。二枚橋野球場があって僕は野球少年だったんですけど、毎週のように練習しましたし、西武線が走り、昔は焼却場があって、絵を描きに行ったりもした場所です。

私としては、あの空間、あそこに漂う温かさというか、ほのぼのさというか、これはこれからもなくてはならないものだと思いますし、新宿からほど近い、中央線の駅から歩くとあれだけの自然環境があるというのは、小金井市の財産だと思います。おっしゃるように、小金井公園は複合公園ですよ。どちらかと言うと武蔵野公園、野川公園は自然公園という意味合いが強いと思っております。今、ここで明解なビジョンというものをお示しする状況にはないのですが、私の思いとしては、今申し上げたような元々あった空気感と言いましょか、自然が豊かで。都も自然再生事業というものを行っていて、ビオトープを作ったり田んぼを作ったり、市民の方々が一生懸命、環境政策に取り組んでいただいている、これからも取り組みを続けてほしいなと思います。

野川の水量もとても気にしています。本当に雨量と連動していて、最近、雨が大量に降ったので水量豊かで嬉しい状況なのですが、雨量が減りますと時期によっては水が完全に枯渇、水枯れをする。特に前原小学校からくじら山までの間が一番枯渇をする。小金井市の雨水浸透ますは、日本一の取組です。これは、昔市民の方、水道指定店事業者の方、行政の大先輩の方々が、野川の水が枯れないようにということで、懸命に制度を作っていただきました。大変画期的で、当時はほぼ義務的に必ずどの家につけられたのですが、それでも抵抗なく皆さん努力していただいて、設置率が62パーセントを超えました。もしかしたら世界一ではないかとおっしゃっている方もいますが、これはこれからも残していきたいですし、このまま行けば30年、40年すると100パーセント設置も夢ではないかなと思っております。水が流れなければ生態系が壊れてしまいますので、野川の水が将来も必ずあるという状況を作り出すためには、何が必要なのかということも考えていかなければならないのかなと思います。

○市民H

今、思い出したのですが、そう言えば市長の選挙ポスターでは、野川に入られていましたよね。野川は生態系の宝庫ですし、守っていかなければならない川の一つであると思うので。やはり、道路問題と密接な関係にあると思うんですね。道路ができることによって生態系が絶対に壊されて行きますし、一度道路が作られてしま

ったら、生態系が壊れてしまったら元には戻らないので、道路に関しては、市民からこういう声が上がっていますと伝えるだけではなくて、市としてこういうふうを考えています、市長としてこういうふうに守っていきたいと思っているという今のようなお話のようなことを、ここはもう少し東京都に対して直接、積極的に申し入れていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○西岡市長

意見交換会が始まった時も、一番最初のご質問がこの道路の問題だったので、その際も私の見解をお話しさせていただいたのですが、東京都にはこれまでも、市長としての考え方を伝えてきました。これからも折に触れて、伝えるべき時にはしっかりと伝えていきたいと思っています。

○市民 I

○町から来ました、○○と申します。聴覚障害があります。いくつかありますが、まず最初に交流センター。先程もお話が出ましたけれども、市民交流センターという名前に変えてほしいということに対して、それは無理ですと市長の話でしたが、出来れば何か市民行事がある時には、市がバックアップして優先的に市民が借りられるような制度がほしいのですが。新聞を見ても、ホールの使い方は例えば音楽とかが優先されているので、市民の交流というイメージではない。障がい者の行事等の場合、あるいは市民行事の場合には、市が応援して優先的に借りられる制度がほしいと思います。二つめは、障がい者と子どもたちの交流が少ないので、まったく障がい者を知らない人も多いと思います。交流センターの行事の中で子どもと障がい者が一緒に交流できるような行事を作ってほしいと思います。三つめは、交流センターだけでなく、今、福社会館がないので、福祉関係の行事をする場所を借りるのがなかなか大変で、いつもいろいろと探していますが、なかなか会場を予約することが難しいです。前は、桜町上水会館等で行事をやっていましたが、ここのマロンホールでやるのも良いですが、問題は会館前の街灯が少なく暗いので、人が集まる場所としてはやっぱりしっかりと照明が必要だと思います。暗いと怖いです。とくにここは、お寺が前にありますよね。暗くて少し怖いですが、街灯がほし

と思います。それからもう一つ、先程C o C oバスの話が出ていましたが、病院等、皆が使う所にバス停がほしいと思います。今は、病院に行こうと思ってもバス停からかなり歩くとか、障がい者福祉センターも近くにバス停がありません。C o C oバスを降りてから、5分くらい歩かなければなりません。すごく大変なので、バス停が近い方がよいと思います。また、市長との座談会には2回目の参加なのですが、皆さんの顔が見えません。以前は見たのですが、今日のように市長と対面で座ると皆さんの顔が見えません。配置を工夫していただくと、皆さんの顔が見えて良かったかなと思います。

○西岡市長

ご意見をいただきまして、ありがとうございます。まず市民交流センターですね。市民が優先的に使用できるように、もっとバックアップをしてほしいということでございます。一定のルールがあるのも事実なのですが、障害者週間シンポジウムですとか、市と市民の皆様が協働で行っている事業等は、行政使用ということで優先的に利用できるように枠を取ると言いますでしょうか、場所を押さえるときも多々あります。今後とも、一定のルールの下にはなりますけれども、行政と市民が協働できるようなものにつきましては、対応していきたいと思っております。どうしても限られた場所になってしまっておりますので、市民の方々同士でもいろいろな方々の申し込みが大変多くなっており、場合によっては抽選というときもございまして、どうかご理解いただきたいと思います。ただ、33年度末にはなってしまいますが、庁舎と仮称新福祉会館、この仮称福祉会館の中にはいろいろな方々が利用できるマルチスペースや、多目的室をかなり広く取っております。福祉会館については、ちょうどパブリックコメントをかけて募集しているところでございまして、ホームページにも基本計画の素案を掲載してございます。もし、お時間がありましたら福祉会館の計画を是非ご覧になっていただいて、気付いたことがあれば、ご要望があれば声として発信していただけたらと思っております。

それから、障がい者の方と市民との交流が少ないというご意見でございました。分かりました。現在もいろいろなことに取り組んでおりますし、行政だけではなく市民の方が、そのような機会を作ってくださいっております。来年4月になりますと、

今まで4年間、国分寺に仮移転していた東京都立小金井特別支援学校が帰ってまいります。新しい校舎が今お目見えしまして、とても立派な校舎ができました。あの学校は、二小や一中の子どもたちとずっといろいろな交流をしてきていましたので、平成30年4月、来年から120名くらいの生徒の方々が通われるものと思われませんが、二小や一中の方々と交流がスタートすることをとても楽しみにしておりますし、大いに期待をしてまいりたいと思っています。12月から、シンポジウムや障害者週間のイベントが始まりますので、私も伺います。作業所でクッキーやパン等を一生懸命作っていただいております。第二庁舎の中でも、一定期間になりますけれども、販売コーナーを今年も作らせていただきます。作業所の方々からは大変期待されており、もっと販売できる場所を作ってほしいという声を伺っておりますので、新庁舎や新福祉会館ができた時には、どのようなことができるのかをしっかりと考えていきたいと思っております。また、お仕事ができる場所も考えていかなければならないだろうと思っております。

それから、街路灯ですね。このマロンホールの周辺、特に前の通りが暗いということが分かりましたので、さっそく担当に伝えて、現場を見て確認させていただきたい。やれることがあればしっかり対応させていただきます。

C o C oバスの件ですね。先程も申し上げましたように、途中、引っ越しのために時間がかかりますので明確には分かりませんが、庁舎と福祉会館の完成が平成34年の3月を目標にしていますから、順調に予定どおり行けば、その後のゴールデンウィーク前後くらいには、新しいC o C oバスの路線が誕生しているように、来年度からC o C oバスの総合的な見直しの本格的な議論をスタートします。路線、料金体系、I Cカードの導入等を含めて、さらなる利便性が高くなることを目指して一生懸命検討してまいります。よろしく申し上げます。

○司会者

お時間の関係がございますので、これで最後の質問にさせていただきたいと思っております。

○市民J

〇〇町から来ました、〇〇と申します。まず1点目、議会をY o u t u b eで動画配信していただきましてありがとうございます。ただ、とても見にくいんですね。誰がどのように発言しているのかが見にくいので、是非、字幕を。今、誰が発言しているのか名前が字幕で出れば、誰が発言しているのかが分かり、答弁をしている職員は誰かも分かるので。一応、言うてはくださるのですが、キャッチボールをしている間に誰が何を話しているかが分からなくなってしまうんです、見ている方ははっきり言って。それで、質問もたまたま曖昧だし、対応している職員の答弁も曖昧だし。議会を中継していただいているのはありがたいですが、見ている側にとって見やすくしていただかないと視聴率が上がらないと思うんです。見ている人は、多い時で40人くらいです。少ないと1人とか2人くらいなので。せっかく放送していただいているので、もう少し見ている側が見やすくしてほしいと思います。

もう一つが、私は精神障がい者、子どもは発達障がい者、また貧困家庭ということていろいろと支援をいただいているのですが、東京学芸大学のパッケージ型支援があります。CCSSというものです。これは小金井市や品川区、足立区とか国分寺市等、いろいろな所が連携していて、最初に連携したのは多分、小金井市だと思います。ただ、この連携をしたのは良いのですが、はっきり言って止まっている状態だと思います。現在、南中で放課後クラブをやっています。あと、二小でボランティアさんが入ってというところで止まってしまっているんですね。小平市等では、東京学芸大学がタブレットを支給してどれくらい学習率が上がっているのかとか、それくらいまで行っているのに、せっかく東京学芸大学と連携しているのに活かせていない。きりりも活かせていない。はっきり言って、こんなに施設とかをお金をかけて作っているのに全く活かせていない状況というのは、発達障害の子どもを持つ親としてはもったいないという思いがあります。先程、特別支援学級等について取組をやっていると言うのですが、壁があるんです。先生方との乖離もある。うちの子は一中の固定の学級にいつているのですが、先生方もある程度頑張ってくださいなのですが、親としてはちょっと大丈夫、分かっているというところがあります。発達障害の程度としては、私の子ども時には6人、今年は12人です。倍入っています。中学校までは支援がありますが、中学校以降、卒業してからの支援はないです。自分で決めろ、です。せっかく学芸大と連携しているので、その辺をうまく活

かしていただいて。

貧困家庭の方もやっていただいて。教育相談所がもくせい教室をやってくださったりとか。もくせい教室というのは、ここに通うと不登校の子も出席日数になるんです。学校に通った日数になるんですね、そこへ行くと。ただのフリースクールなんです。せっかくあるんです。そういうところも市のほうで出していただいて、知らない方も多いので、是非とも、その辺を告知だったりとかを、活用方法があるということを広めていただきたい。

あともう一つごめんなさい、あまりにも職員の方がこういうことを知らなさすぎるんですね。うちの子は塾に通ってなくて、学芸大の学生さんのサークルでお世話になっています。これは1回1,000円でとても安いんです。それで、とても親身なんです。子どもは学校には行きたがらないけどここには必ず行くみたいな形で。そのお金を市が援助してくださっているんですね。東京都のチャレンジ支援ということで。その申請の時に、塾から新しくボランティア枠が出来たと。どうしますかという時に、そこがどういう所か調べたいので電話していいかという話になったので、別に断る理由もないのでいいですよと言いましたが、はっきり言ってこういうことをやるよと載せたのは市報なんです。市報がこの学び舎というのをやりまますよと載せたんですよ。それなのに市の職員がこのことを知らないで、これから調べていいですかというのは矛盾でしょうという話なので、是非、市の職員の中で縦割り、横割りではなくて、円滑に情報共有ができてるようにしていただきたいというのが、私のお願いというか、そういう感じです。失礼いたしました。

○西岡市長

たくさんいただきました。ありがとうございます。まず、議会のYouTubeですね。実は、議会の方々の取組になっていまして、今日は白井亨市議会議員の方がお越しいただいてまして……。というご意見をいただきましたが。

○白井議員（市議会議員）

無料のものを使っています、今後、予算化する等、ご意見いただきながら検討していきたいと思っております。申し訳ございません。

○西岡市長

私の方からも、このようなご意見があったということは、議長や議会にお伝えさせていただきたいと思います。ただ、行政として努力できることがあれば当然やらなければならないと思っておりますので、よろしくをお願いします。

学芸大学の取組につきましては、現状を調べさせていただきたいと思います。一中が非常に良い取組があったという経過を知っております。私としては、学芸大学との連携というのは本当に大切であり、教員志望者、教員養成学校としての学芸大学が市内に存在しているということは、非常に大きな財産であると思っております。また、あそこで学ぶ学生にとっても机上の勉強ではなくて、将来、臨床心理士やカウンセラー、教員や大学教授などいろいろな道があると思いますが、学生時代・大学院生時代に小金井の子どもたちと直接、接していただくことで、彼らにとっても有益な経験になると思っておりますので、努力したいと思っておりますが、現在、どのような課題となって止まっているのか、現状を調べさせていただきたいと思っております。

きらりについても、まだまだ活かされていないということでもございましたので、小金井市が発達支援センターとしてせっかく作り、非常に重要な機能を持たせておりますので、そういった声が上がってしまう現状をしっかりと受け止めなければならないと思います。もくせい教室は、元校長先生・元教員の方々、私も二十数年前から先生方と意見交換をしたり、市長になってからもいろいろな現場の声を聞いたりしています。とても大切な場所だと思います。不登校の子どもは小金井にもいます。いろいろな悩みを抱えています。そういった方々にとっては、大変、大切な場所になっていきますので、もくせい教室の存在意義が高まるように努力をしてみたい。教育委員会にはしっかり伝えていきたいと思っておりますし、我々も努力します。

職員の知識不足ということでご指摘いただきましたので、この反省をいかしまして、もっと情報共有を図れるように一生懸命、努力をしてみたいと思っております。

それでは最後になりましたので、少し時間がありますので、個別にありましたら、残っておりますので、先程の街路灯の話ですとか何かありましたら、お話を伺いたいと思っております。また、今日は地元の都議会議員のつじのさんも、この市民と市

長の座談会でずっとお話を聞いていただいております。ありがとうございます。

○つじの議員（都議会議員）

貴重なお話をありがとうございました。市民の立場で一つだけ、ちょっと確認したいことがございまして、先程の意見にもありましたが、全市を挙げて小金井市を盛り上げていくんだという機運と言いましょうか、私も大賛成ですが、直近というか当面の目標というか節目として2020の東京オリンピックがあると思うのですが、それと小金井市の取組というのを少し確認させていただきたいのでよろしくをお願いします。

○西岡市長

小金井市は、競技会場はありません。選手村になるような施設も残念ながらありませんけれども、東京の自治体の一員ではあります。これから、外国人の方々も大勢来られます。例えば江戸東京たてもの園。昨日から三日間のライトアップが始まっています、私も行ってきました。すごい人数でしたね。外国の方々も大勢来られていました。ヨーロッパの方々は、ああいう歴史や文化が好きな傾向があるのかなと思いますが、小金井市としては観光資源がたくさんありますけれども、たてもの園は非常に有力な場所なので、たてもの園と小金井とをつなぐような取組も考えて。実際、商工会の方々が江戸東京おもてなし事業に取り組んでいただいておりますけれども、たてもの園に来られる外国人の方々と小金井市とをつなぐとかですね、そういう取組が大事だと思っております。私は、主に学校現場で子供たちにオリンピック・パラリンピックの大切さや思想、平和教育、こういったものを伝えていくことが大切だと思っておりますし、また、先程も申し上げましたが、オリンピック・パラリンピアンの方々をなるべく多く小金井市に呼んで、学校にも行っていただいて子どもたちに良いお話、良い体験談を聞かせてほしいなと思っております。

今日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。また、時間が少し過ぎてしましまして申し訳ございませんでした。もっともっと皆様方にお伝えしたいことがたくさんあるのですけれども、お時間でございますのでここで終了させていただきたいと思っております。

最近、感動したことはいっぱいあるのですが、10月10日に小金井市の人口が12万人を初めて超えました。そして、10月10日に住民登録をされた3組のご家族の方をお招きして、11月11日に記念証をお渡し、お祝い会をさせていただきました。1人は10月10日に出生届が出された男の子、〇〇〇〇君です。もう1人は、同じく10月10日出生届が出された女の子、〇〇〇〇さん。それから、3組目が2人そろって市外から転入し、10月10日に婚姻届を出したご夫婦です。生後1か月で、まだ首も据わっていない赤ちゃんが来てくれました。とてもかわいくて光輝いていました。それから新婚の方々は、なぜ10月10日に入籍したかという、「ちょうど1年前の10月10日にプロポーズをされたので、この日に入籍をしました。」と。そして、なぜ小金井を選んだのですかと記者さんが聞いたら、「ほっとする、落ち着きがあるまちで私は大好きです。小金井を選びました。」と書いてくれました。本当にとっても嬉しい言葉でした。

私たち行政は、今を生きる小金井市民の方々の様々な課題を解決するために、そして、市民お一人お一人の幸せを実現できるように、行政、今、何をやるのか。様々な課題に直面して取り組んでおりますとともに、11月11日にお会いした二人の赤ちゃん、そして新婚のカップル、この方々が30年後も50年後も今の小金井市が小金井市としてしっかりと存在していただけるように、将来にこのまちをしっかりとバトンタッチしていける。そういうことにも念頭に置いて、仕事をしなければいけないなとつくづく思わせていただいた次第でございます。

これから、私も任期の折り返し地点を迎えることになります。まだまだ至らない点もあり、反省しなければいけないこともたくさんありますけれども、与えられた4年間の任期で、掲げた政策の実現や目標達成が何とでもできるように引き続き努力させていただきたいと思いますので、今後とも様々な厳しいご指摘も含めまして、いろいろな声をお寄せいただければと思います。今、ホームページを見ていただきますと、大変重要な計画案のパブリックコメントや審議会のご案内、公募、たくさんのごことに取り組んでおりますので、是非ホームページをご覧ください、パブリックコメント等を通じていろいろなご意見がお寄せいただけたら幸いです。本当に、今日は貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

6 閉 会

○司会者

それでは以上をもちまして、平成29年度第4回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。アンケートと画板につきましては、退室の際に回収いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。